

さつきた★

ボランティア通信

2021年1月号
Vol.8

発行
札幌市北区ボランティア
活動センター



コロナ禍でも 22 施設で ボランティア受け入れ

北区内の高齢者や障がい者などの施設に対して、ボランティア受け入れに関する情報提供をお願いしました。コロナ禍により受け入れ施設は例年よりかなり少ないものの、感染予防対策を取り入れた北海道スタイルのもと、入所者や通所者とはなるべく接触しない方法をとるなど工夫を凝らして実施しています。

対象は高齢者や障がい者施設など 82 施設で、ボランティアを「受け入れ可能」「受け入れ応相談」と回答した施設は 22 あり、内訳は高齢者 9、障がい者 4、障がい児 4、児童 3、認知症カフェなどのその他 2 でした。受け入れている施設では、検温や手指の消毒、マスク着用はもちろんのこと、定期のボランティアのみの受け入れや密にならない工夫、「ボランティアが決まったら、なるべく外出は控えてもらう」などの協力をお願いしているところもあります。

一方、受け入れを中止している施設では、「家族の面会を制限しているので見合わせざるを得ない」といった回答に加え、コロナ禍が落ち着いた段階でのボランティア再開を望む声が多数ありました。

受け入れしている施設を一覧表にしました。北区社協のホームページで確認できるほか、希望者には郵送いたしますので、お気軽にご連絡ください。

【札幌市北区ボランティア活動センター】

お手伝いを探している方と手を貸せる方を結びつける役割を果たしているのが当センターです。どうぞお気軽にお問い合わせください。

〒001-0024 札幌市北区北24条西6丁目1-1 北区役所1階
社会福祉法人 札幌市北区社会福祉協議会内

【相談時間】 8:45～17:15（土日祝日、年末年始除く）

【TEL】 011-757-2482 【FAX】 011-737-7270

【HP】 <http://www.sapporo-shakyo.or.jp/about/kita-shakyo/>



新年も
よろしく!

あなたの街の ボランティア訪問！

消毒など感染対策をしっかり

～コロナ禍での児童デイサービス～

コロナ禍でボランティア活動が停滞している中でも、ボランティアの受け入れを継続している施設があります。児童デイサービス「コンチェルト」（北23条西5丁目）は、発達に不安や困難がある子どもたちをサポートする施設です。感染対策を万全にしてボランティアの手助けを受け、子どもたちの「元気」を支えています。



2施設あり、幼児から18歳までの子どもたち約100人が通っています。5人1グループとなり、先生とマンツーマンで遊びや学習を通してコミュニケーションの図り方を身に付けていきます。コロナウイルスの感染対策としては検温や手洗い、マスク着用に加え、おもちゃなどの道具もしっかりアルコール消毒をしています。



訪問した12月9日は5人の幼児が思い思いのままブロック遊びなどに興じていました。中にはついたてを使って「子どもの国」を築くなど想像力豊かな幼児も。介護福祉士や教師を目指す学生たち、ボランティアの高齢者の姿もありました。特に学生は学校での授業やサークル活動が中止となってしまう「何か卒業までに人との交流、心と心のふれあいを体験したい」と

ついたての向こうは「子どもの国」 という切実な願いを施設が聞き入れて、ボランティアの受け入れを続けるという背景もあるようです。当センターがボランティアの橋渡しをした女性もここでボランティアを体験。「とてもいい時間を過ごさせてもらった」という感謝の声が寄せられたそうです。

遊びの後は個別課題に取り組み、その後はみんなでカレンダーづくり。おやつや絵本の時間もあり、2時間程度で終了します。例年だと工場見学やスケートなど屋外での活動や調理実習もありますが、今年はコロナ禍で中止となりました。その分、冬休みのプログラムは羽子板づくりや百人一首、書き初め大会など楽しい企画が目白押し。ボランティアの活躍の場がたくさんありそうです。



あけましておめでとうございます

コロナ禍での新年を迎えます。お正月といってもいつものおめでたさは半減といった感じで、帰省をあきらめた人や集まりを縮小した人、旅行を取りやめた人もいるでしょう。ボランティアの全面的な再開はまだ先になりそうですが、施設の側も受け入れを心待ちにしているようです。もう少しの辛抱です。

